

「母と子の絆」 29日から長崎で上映

1968年に本県など西日本一帯で発覚した食中毒事件「カネミ油症」

被害者の苦悩を描いたドキュメンタリー映画「母と子の絆 カネミ油症の真実」が完成し、29日から12月5日まで長崎セントラル劇場で公開される。稲塚秀孝監督(74)

は「カネミ油症事件はまだ問題解決されず、被害者は子や孫の世代まで広がっているのが現実。世間では終わったものだと思われているが、そうではないと伝える意味がある」と、「渾身の作品」と強調する。

「カネミの問題を知っていますか」。この映画の制作は、2006年、長崎市の長崎セントラル劇場であった稲塚監督初のドキュメンタリー映画「二重被爆の上映会」で、油症被害者である五島市の矢口敏子さんから声をかけられたことがきっかけ。

「母と子の絆 カネミ油症の真実」は、五島市の認定患者、岩村定子さんが油を摂取後に産み、4カ月で亡くなった長男の患者認定を求め続ける姿をはじめ、矢口さんら被害者を訴える母と子たちの苦悩を描いている。油症の原因である猛毒物質ダイオキシン類が親から子にどう影響したかについても焦点を当てた。

油症被害者は数万人に上るとみられるが、今年3月末までの認定患者数は死者を含めて2377人にとどまる。映画では健康被害が事実としてあるのになぜ認定されないのか、不十分な救済制度などへの憤りも描いた。

1968年10月に「正体不明の奇病」「からだ

1968年に本県など西日本一帯で発覚した食中毒事件「カネミ油症」

被害者の苦悩を描いたドキュメンタリー映画「母と子の絆 カネミ油症の真実」が完成し、29日から12月5日まで長崎セントラル劇場で公開される。稲塚秀孝監督(74)

は「カネミ油症事件はまだ問題解決されず、被害者は子や孫の世代まで広がっているのが現実。世間では終わったものだと思われているが、そうではないと伝える意味がある」と、「渾身の作品」と強調する。

「カネミの問題を知っていますか」。この映画の制作は、2006年、長崎市の長崎セントラル劇場であった稲塚監督初のドキュメンタリー映画「二重被爆の上映会」で、油症被害者である五島市の矢口敏子さんから声をかけられたことがきっかけ。

「母と子の絆 カネミ油症の真実」は、五島市の認定患者、岩村定子さんが油を摂取後に産み、4カ月で亡くなった長男の患者認定を求め続ける姿をはじめ、矢口さんら被害者を訴える母と子たちの苦悩を描いている。油症の原因である猛毒物質ダイオキシン類が親から子にどう影響したかについても焦点を当てた。

油症被害者は数万人に上るとみられるが、今年3月末までの認定患者数は死者を含めて2377人にとどまる。映画では健康被害が事実としてあるのになぜ認定されないのか、不十分な救済制度などへの憤りも描いた。

1968年10月に「正体不明の奇病」「からだ

1968年に本県など西日本一帯で発覚した食中毒事件「カネミ油症」

被害者の苦悩を描いたドキュメンタリー映画「母と子の絆 カネミ油症の真実」が完成し、29日から12月5日まで長崎セントラル劇場で公開される。稲塚秀孝監督(74)

は「カネミ油症事件はまだ問題解決されず、被害者は子や孫の世代まで広がっているのが現実。世間では終わったものだと思われているが、そうではないと伝える意味がある」と、「渾身の作品」と強調する。

「カネミの問題を知っていますか」。この映画の制作は、2006年、長崎市の長崎セントラル劇場であった稲塚監督初のドキュメンタリー映画「二重被爆の上映会」で、油症被害者である五島市の矢口敏子さんから声をかけられたことがきっかけ。

「母と子の絆 カネミ油症の真実」は、五島市の認定患者、岩村定子さんが油を摂取後に産み、4カ月で亡くなった長男の患者認定を求め続ける姿をはじめ、矢口さんら被害者を訴える母と子たちの苦悩を描いている。油症の原因である猛毒物質ダイオキシン類が親から子にどう影響したかについても焦点を当てた。

油症被害者は数万人に上るとみられるが、今年3月末までの認定患者数は死者を含めて2377人にとどまる。映画では健康被害が事実としてあるのになぜ認定されないのか、不十分な救済制度などへの憤りも描いた。

1968年10月に「正体不明の奇病」「からだ

1968年に本県など西日本一帯で発覚した食中毒事件「カネミ油症」

被害者の苦悩を描いたドキュメンタリー映画「母と子の絆 カネミ油症の真実」が完成し、29日から12月5日まで長崎セントラル劇場で公開される。稲塚秀孝監督(74)

は「カネミ油症事件はまだ問題解決されず、被害者は子や孫の世代まで広がっているのが現実。世間では終わったものだと思われているが、そうではないと伝える意味がある」と、「渾身の作品」と強調する。

「カネミの問題を知っていますか」。この映画の制作は、2006年、長崎市の長崎セントラル劇場であった稲塚監督初のドキュメンタリー映画「二重被爆の上映会」で、油症被害者である五島市の矢口敏子さんから声をかけられたことがきっかけ。

「母と子の絆 カネミ油症の真実」は、五島市の認定患者、岩村定子さんが油を摂取後に産み、4カ月で亡くなった長男の患者認定を求め続ける姿をはじめ、矢口さんら被害者を訴える母と子たちの苦悩を描いている。油症の原因である猛毒物質ダイオキシン類が親から子にどう影響したかについても焦点を当てた。

油症被害者は数万人に上るとみられるが、今年3月末までの認定患者数は死者を含めて2377人にとどまる。映画では健康被害が事実としてあるのになぜ認定されないのか、不十分な救済制度などへの憤りも描いた。

1968年10月に「正体不明の奇病」「からだ

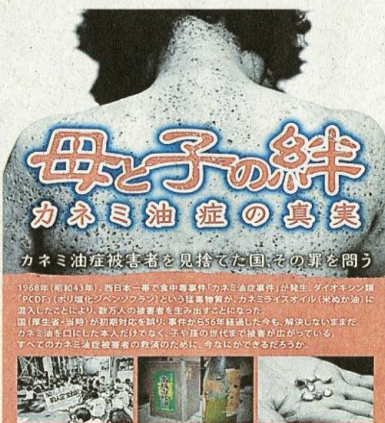
1968年に本県など西日本一帯で発覚した食中毒事件「カネミ油症」

被害者の苦悩を描いたドキュメンタリー映画「母と子の絆 カネミ油症の真実」が完成し、29日から12月5日まで長崎セントラル劇場で公開される。稲塚秀孝監督(74)

は「カネミ油症事件はまだ問題解決されず、被害者は子や孫の世代まで広がっているのが現実。世間では終わったものだと思われているが、そうではないと伝える意味がある」と、「渾身の作品」と強調する。

「カネミの問題を知っていますか」。この映画の制作は、2006年、長崎市の長崎セントラル劇場であった稲塚監督初のドキュメンタリー映画「二重被爆の上映会」で、油症被害者である五島市の矢口敏子さんから声をかけられたことがきっかけ。

稲塚監督「事件は終わっていない」



映画「母と子の絆 カネミ油症の真実」のチラシ©TAKION JAPAN2024

長崎カネミ油症被害者を追った国、その事を知る。1968年(昭和43年)、西日本一帯で発生した食中毒事件「カネミ油症事件」が発生。ダイオキシン類(PCDF)の汚染物質が、カネミオйл(カネミ油)に混入し、数万人の被害者を生み出した。国(厚生省・当時)が初期対応を誤り、事件から56年経過後、解決しないまま。カネミ油を口にした本人だけでなく、子孫の世代まで被害が広がっている。すべてのカネミ油症被害者の救済のために、今、私たちにできることがある。

中に吹出物「米ぬか油が原因？」と新聞報道されてから56年がたつ。稲塚監督は「この事件は何だったのか、少しでも迫りたい」と被害者や医師、研究者、行政の担当者ら約50人取材。「被害者も含めて基本的に、顔出しで取材を受けてくれた」という。放送局などから借りた映像も活用し、被害者運動や民事訴訟なども振り返った。

映画はエンドロールのナレーションでこう問いかける。「もしも半世紀前に事件が起こった時に食品衛生法に基づいて食中毒と認定されて、適切な処置がなされていたら、これほど悲惨な歴史をたどることはなかったのではないか」「ずっと無作為だった国、厚生労働省、九州大学をはじめとする医師、研究者、弁護士、支援してこられた方々、すべてに応分の責任があったのではないかと。そして最後に、矢口さんが登場。興味がなかった花や植物に目を向けるようになり、自分で食べる米作りを始めた彼女の胸に秘めた思いを打ち明ける。

稲塚監督は「映画を見ながら、長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

大阪、京都、北九州、東京で上映される。長崎セントラル劇場では、午前10時から午後5時30分までの1日2回上映。29、30の両日は上映後に稲塚監督の舞台あいさつがある。

メモ

映画「母と子の絆 カネミ油症の真実」 稲塚監督がプロデュースし、8月に完成。9月には五島市で先行試写会があった。11月は長崎のほか大

「カネミ油症事件は現在進行形の問題」と語る稲塚監督

長崎新聞社(中村亮撮影)

